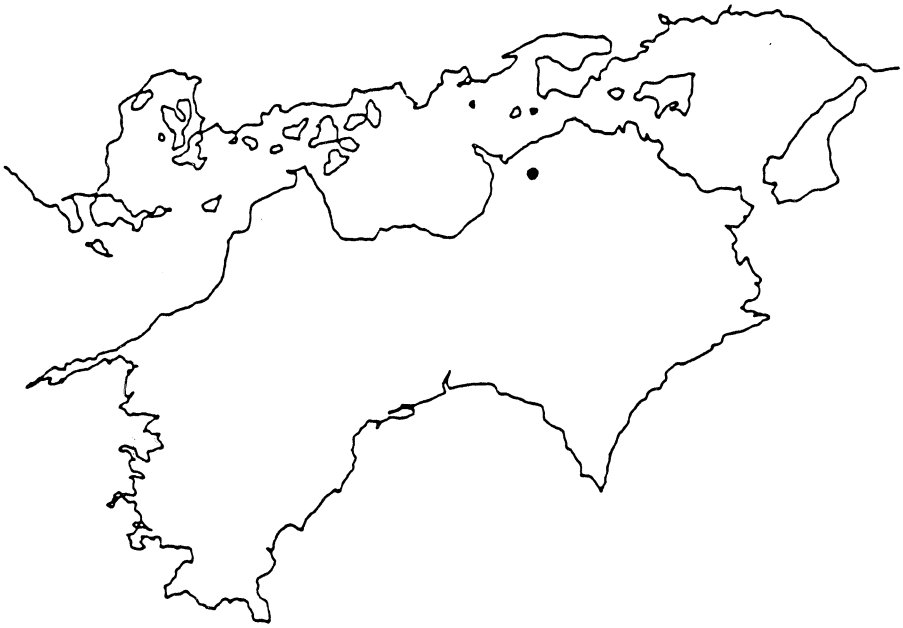
多度津町内遺跡発掘調査報告書

平成６年度国庫補助事業報告書

平成７年３月

多度津町教育委員会

多度津町内遺跡発掘調査報告書



多度津町教育委員会

序　　文

今回の発掘調査地であった青木地区は、南に弥生時代の遺跡である三井遺跡、西には、同じく弥生時代の遺跡である舟岡山遺跡があり、付近には同地区からの遺構が拡がっている可能性がありました。

この青木地区の遺構を確認することは、今後の埋蔵文化財保護行政及び多度津町の歴史を考えるうえで非常に重要であると考え、平成６年度の国庫補助事業として、発掘調査を実施しました。

調査結果については予想を覆し、遺構の確認はできませんでしたが、こういった調査の１つ１つの積み重ねが、今後の埋蔵文化財保護行政の資料として、役立つものであると確信しております。

最後になりましたが、この調査にあたりご協力をいただきました地元の皆様方及び調査・整理作業に従事下さいました方々に厚くお礼申し上げます。

平成７年３月

多度津町教育委員会
教育長　　秋　山　直　也

例　　言

1. 本書は、多度津町教育委員会が、平成６年度国庫補助事業として実施した、多度津町内遺跡発掘調査の報告書である。

2. 今回の遺跡発掘調査は、今後開発が予想される地域における埋蔵文化財の基本資料作成及び範囲の確認を目的とし、青木地区を対象とした。

3. 発掘調査は、多度津町教育委員会が事業主体となり、調査の実施にあたっては、多度津町教育委員会社会教育課主事　岡　敦憲　が担当した。

4. 調査にあたっては、
　藤沢　進、池田正美、池田敬子、山口ハルミ
　　諸氏の協力を得た。

5. 本書の作成にあたり、執筆等については、岡が担当し、実測・トレース等の作成については、
　猪木原美恵子、葛西　薫、西山佳代子
　　の協力を得た。

6. 本書に用いた方位は全て指針方位でしめす。

7. 出土遺物及び図面は、多度津町立資料館にて保管している。

目　　次

第１章　平成６年度多度津町内遺跡発掘調査にいたる経緯 …… (1)
第２章　青木地区発掘調査
1. 立地と環境 …… (2)
2. 発掘調査概要
(1) 位置 …… (3)
(2) 遺構について …… (4)
(3) 遺物について …… (6)
第３章　まとめ
（参考）付近の遺跡について

写　真　目　次

写真１　発掘調査風景 …… (4)
写真２　完掘状況 …… (5)

挿　図　目　次

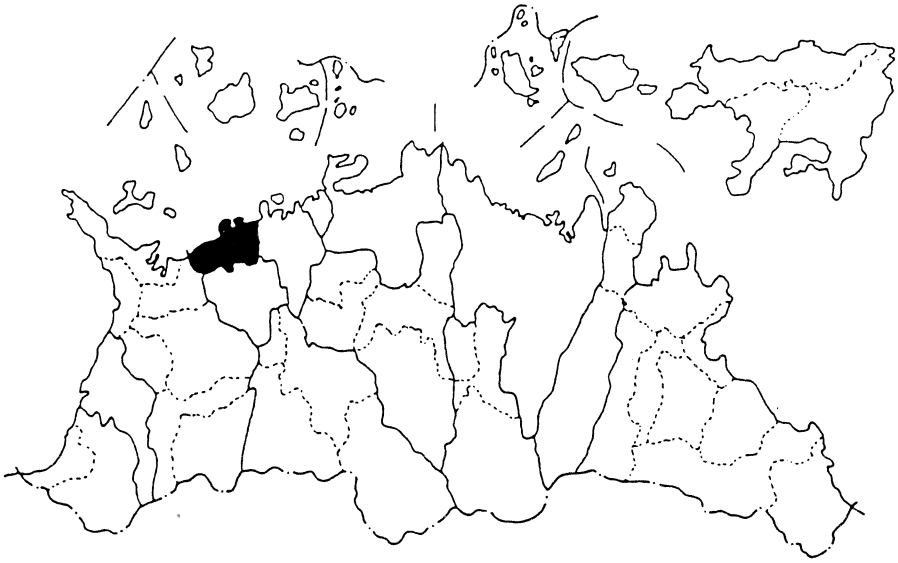
第１図　多度津町の位置 …… (1)
第２図　多度津町内主要遺跡位置図 …… (2)
第３図　発掘調査位置図 …… (3)
第４図　三井遺跡出土遺物実測図 …… (8)
第５図　〃 …… (9)
第６図　舟岡山遺跡隣接地出土遺物実測図 …… (10)

第１章　平成６年度多度津町内遺跡発掘調査にいたる経緯

当町における本格的な埋蔵文化財の確認調査あるいは本調査は、国庫補助事業として、平成４年度に始動したといって、過言でなく、近年、土地区画整備事業あるいは農道整備事業が多くなっており、これに対応すべく、埋蔵文化財の有無について、早急に把握し、その資料を作成することが、急務となっていた。このため、香川県教育委員会と協議し、平成６年度の国庫補助事業として、多度津町内遺跡発掘調査を実施することとした。

当初の多度津町内遺跡発掘調査の予定は、青木地区・南鴨地区であったが、調査予定地であった南鴨地区については、調査が急務となり、単独事業として実施したため、調査対象地を青木地区のみとした。

同地区近辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地（三井遺跡）が確認されていた。これまで同地区での遺物の確認はなかったが、今後予想される大なり小なりの開発等に伴う事前調査として、遺構の「有無」と「拡がり」を確認し、基礎資料とするため、平成６年10月18日から同年10月31日までの14日間、調査を実施した。



第１図　多度津町の位置

第２章　青木地区発掘調査

１　立地と環境

今回の発掘調査地である青木地区は、多度津町の南西部に位置している。南に「三井遺跡」西に「舟岡山遺跡」が隣接、北約1.8㎞地点では多数の甕出土したと言われている（多度津中学校付近）が、正確な遺構の有無・規模・範囲等については不明である。

これら遺跡からは、遺物が出土していたため、今回の調査地区については、当初、遺構の有無は確実視されていた。

付近の弥生遺跡は、西は丸亀市の「中の池遺跡」、南は善通寺市の「五条遺跡」「善通寺西遺跡」「旧練兵場跡遺跡」などが有名である。

①三井遺跡　②舟岡山遺跡　③盛土山古墳　④向井原古墳　⑤天霧城跡

第２図　多度津町内主要遺跡跡位置図

2　発掘調査概要

1)所在地　　多度津町大字青木

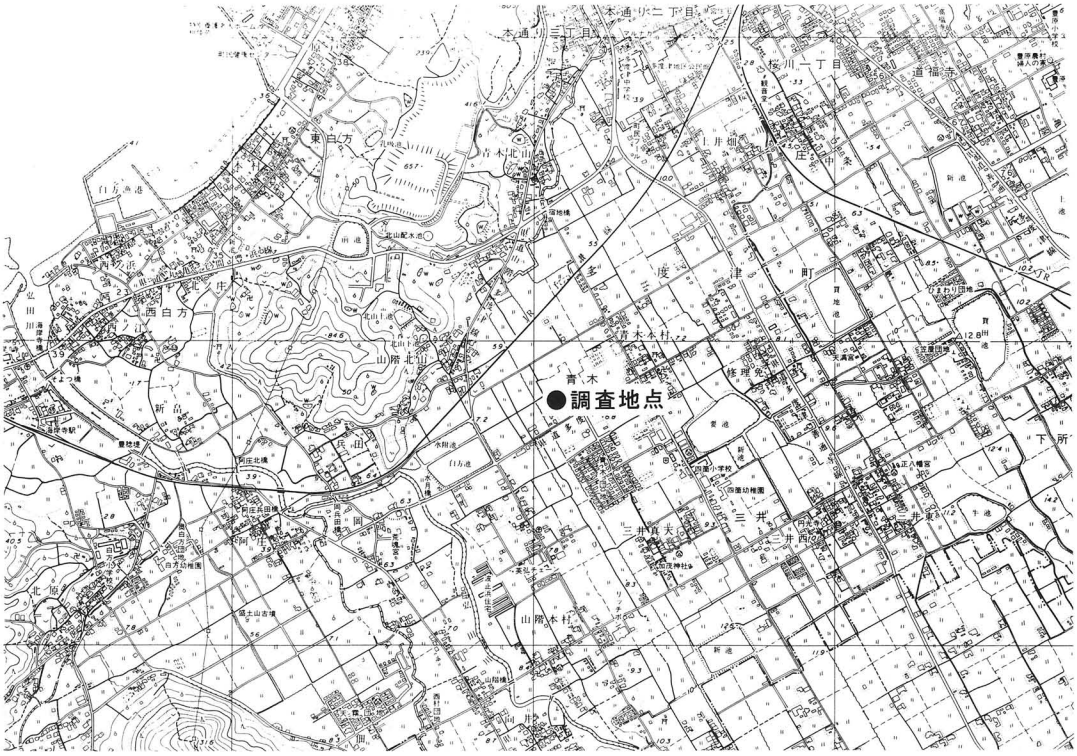
2)調査期間　平成６年10月18日～同年10月31日

3)調査面積　50㎡

(1)　位　置

現場は、県道多度津丸亀線から北に約１００ｍの地点である。

遺構・遺物は今調査まで確認されていない地点であったが、弥生時代の遺跡が多く隣接しているため、遺構の有無を確認する条件の整った場所であった。



第３図　発掘調査位置図

(2)　遺構について

東西方向にトレンチを４本設定し、遺構の有無、包含層、遺構の深度について、調査を実施した。

すべてのトレンチで遺構の確認はできなかった。

耕作土下に約15㎝の包含層を確認する。調査区域が狭かったため、遺跡・遺構の有無については、断定はできない。

写真１　発掘調査風景

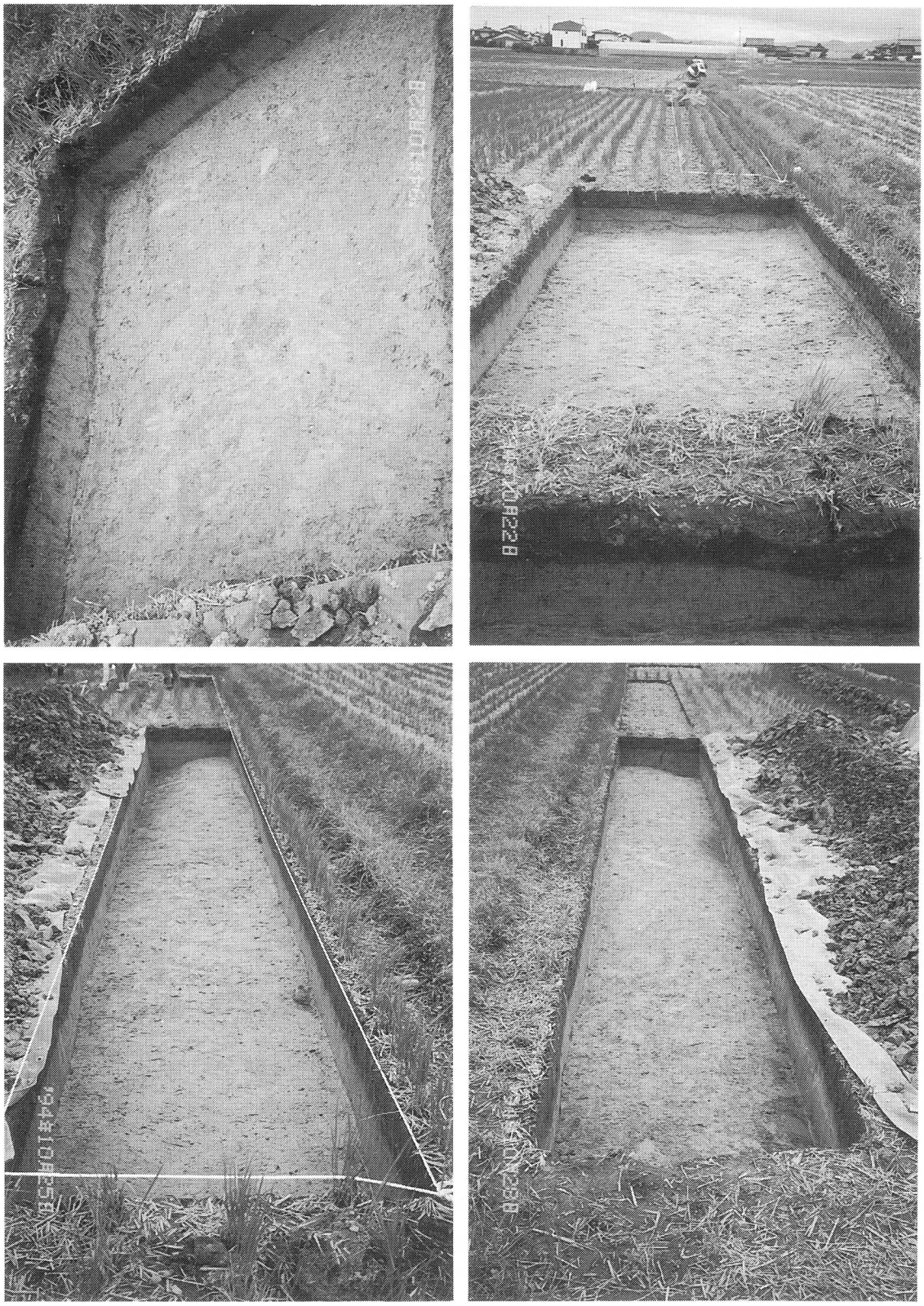


写真２　完掘状況

(3) 遺物について

遺物は、包含層からのみ若干出土した。そのほとんどが弥生土器片であるが、器種等がわかるものは、わずかであった。

第3章　まとめ

今回の発掘調査により、「三井遺跡」及び「舟岡山遺跡」からの連続した遺構は確認できなかったが、包含層から若干の遺物が出土したことから、調査地点には遺構が存在しないものの、付近において、遺構が存在する可能性を残す結果となった。

今後これらの資料を基にして、発掘調査・研究を積み重ね、多度津町内における埋蔵文化財の範囲及びそれぞれの遺跡・遺構の性格を解明していくことが、現代社会における開発と埋蔵文化財保護行政とが共存していくための手段の１つであると考える。

（参考）付近の遺跡について（第２図参照）

現在、多度津町内においての弥生遺跡（遺構あるいは遺物が確認されている地点）は、

① 三井遺跡

② 舟岡山遺跡

である

このうち、

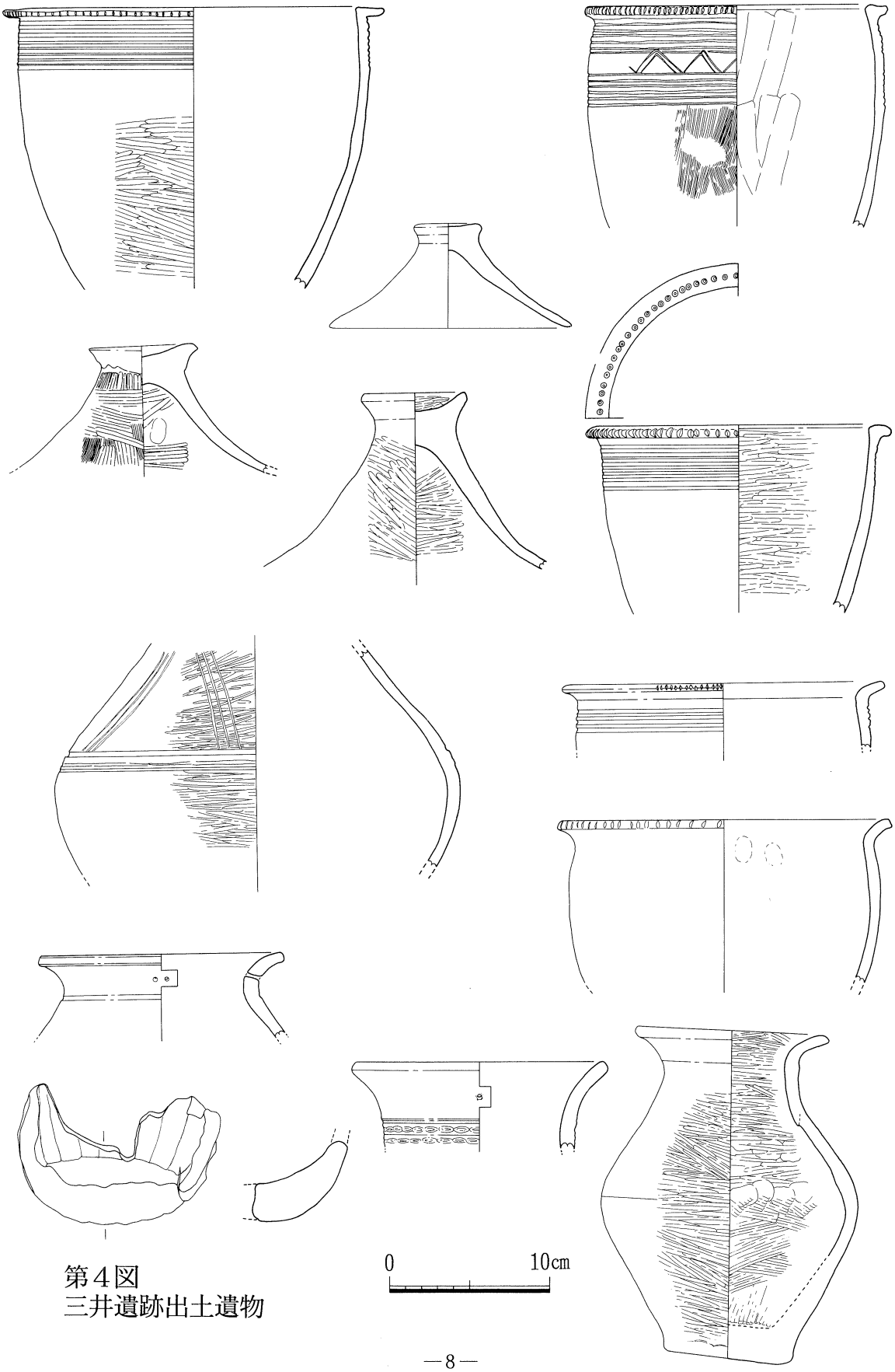
①の「三井遺跡」については、一部ではあるが、平成４年度の国庫補助事業として、遺跡の範囲確認調査を実施している。

②の「舟岡山遺跡」については、小山全体が甕棺墓の遺跡として考えられていたが、平成５年度に実施した発掘調査により、山の南半分に集中し、北半分には遺構が存在しないことが判明した。また、南斜面下の民家改築時に土器片数片が確認されている。

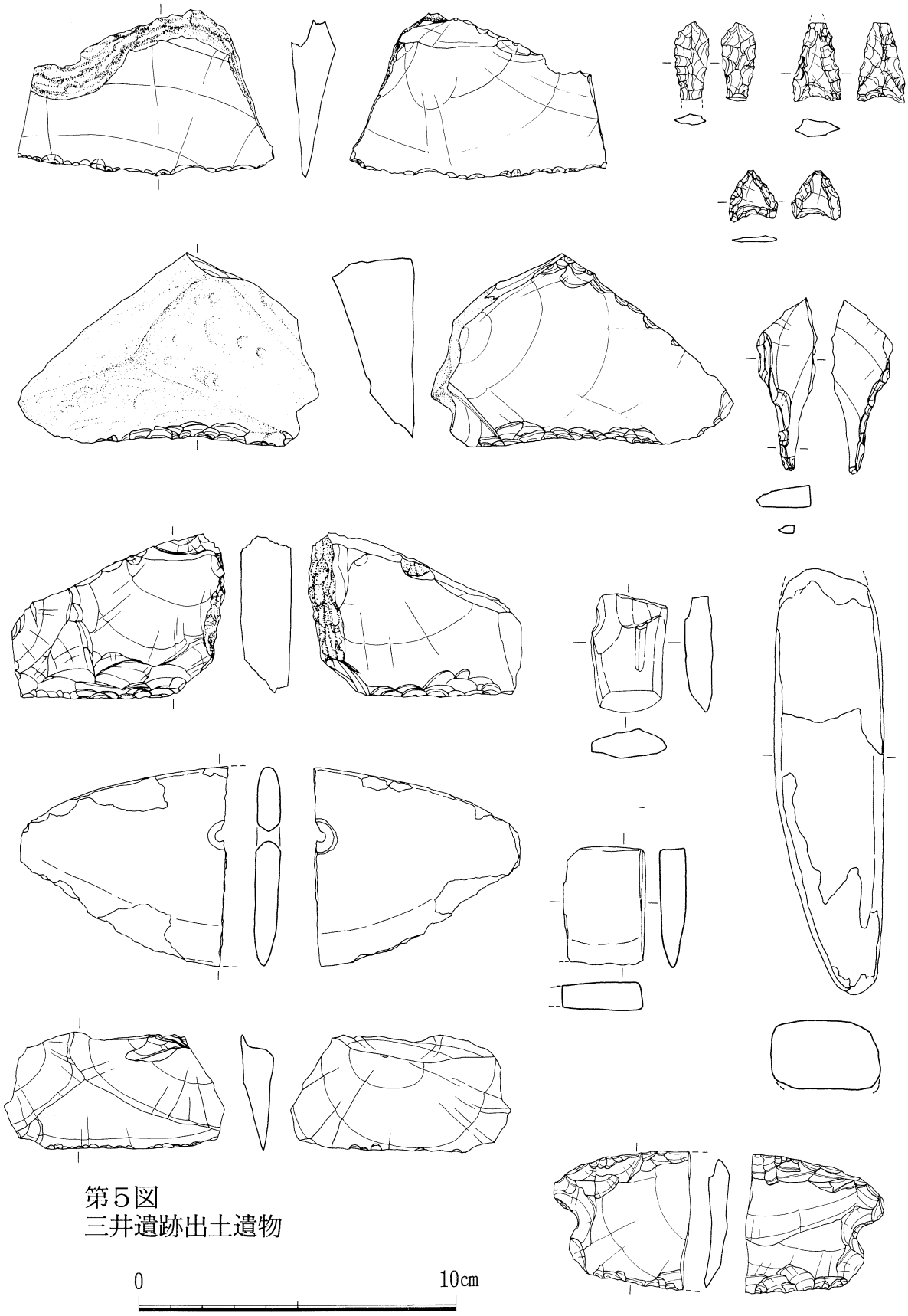
また、「中学校付近」において甕が出土したと伝えられるが、調査がなされておらず、詳細はわからない。

（参考文献）

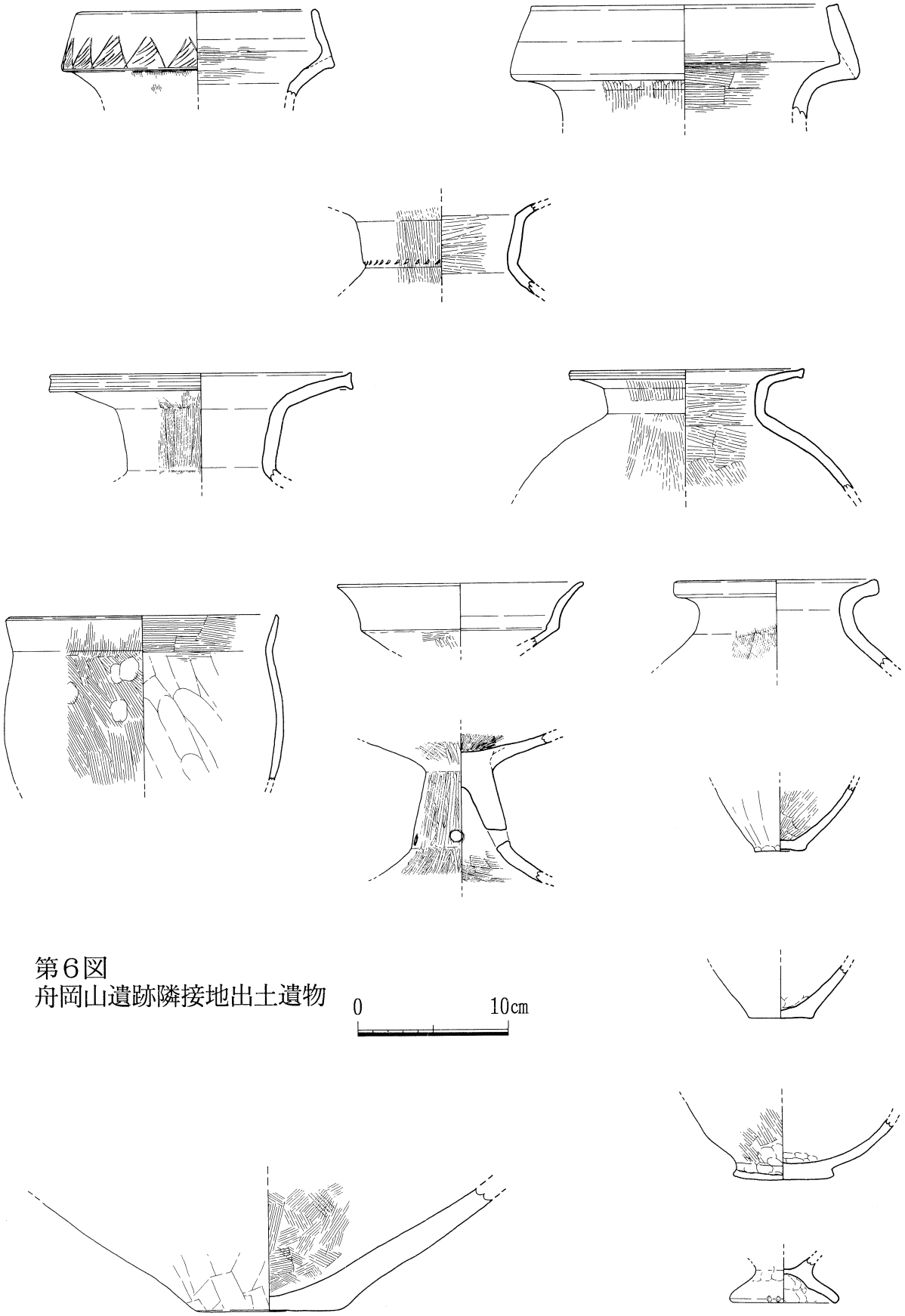
1. 多度津町内遺跡発掘調査報告書
（平成４年度国庫補助事業報告書）



第４図
三井遺跡出土遺物



第５図
三井遺跡出土遺物



第６図
舟岡山遺跡隣接地出土遺物